爽やかな夏は
チョットでかけて
自然を学ぼう！

府中市生涯学習センター

生涯楽習だより

第84号 ＜夏号＞ 2023年7月1日 発行

４面の追加記事を含む“ＷＥＢ版”公開中！⇒

企画・編集 ： 府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
共 同 発 行 ： 府中市文化スポーツ部文化生涯学習課
府中市生涯学習センター（ミズノ・KPB グループ）

夏の花
7月：マリーゴールド
8月：ハイビスカス
9月：コスモス
＜作品提供＞
府中植物画の会

P1

出かけてつかもう
「自然を学ぶきっかけ」

P2

・新館長はこんな人
・みんチャレ体験記

P3

インタビュー
蛍飼育に取組む牛尾さん

P4

［ふちゅう東西南北］
武蔵野公園に行ってみよう

ちょっと出かけてつかもう！
いろいろな「自然を学ぶきっかけ」

（1）詳しい人に教えてもらう

府中では、様々なイベントや講座が開かれています。そこに参加して詳しい人に聞いて知識を深めるのも自然を学ぶチャンスになります。例えば…

・観光ボランティアの会が実施している「市内観光ミニツアー」。大國魂神社を中心に自然や歴史を分かり易く解説してくれるコースが４つあります。
・東京農工大学の市民向け講座。自然との共生や、野菜づくり・ガーデニングのヒントが学べます。

（2）自然の宝庫に出かけてみる

府中市内には、武蔵野公園、府中の森公園、郷土の森公園など、大規模な公園がいくつもありますね。

訪れてみると、いろいろな発見や学びがあります。写真のように豊富なパンフレットも準備されていますので、手に取ってみましょう。へ～がいっぱいあります。

（3）グループに参加する

府中市で自然保護や環境ボランティアで活動している団体・グループは数々あります。ちょっと勇気を出してその門をたたいてみるのも、自然を学ぶ早道かも。主な団体・グループには…

・府中かんきょう市民の会　・浅間山自然保護会
・かんきょう塾ネット　など

「広報ふちゅう」にグループのイベントや会員募集の告知が掲載されます。チェックしておきましょう。

（4）散歩しながらスマートフォンを使う

自然に親しむと言えば、やはり散歩。健康にもいいと言われるので、7000歩くらいを目標に歩くといいでしょう。その道すがら、目についた草や花、虫などをパチリと写真に撮れば、スマホのアプリで簡単にその名前や生態が分かります。

「みんチャレ」で自然を学ぶチャレンジを！
注目！「クイズ化」

三日坊主にならないためには、「みんチャレ」というアプリを使ってみましょう。「みんチャレ」は専門家監修の下に作成された、匿名の５人１組で続ける「習慣化アプリ」。目標を決め、チャットで写真を送り合って三日坊主を防ぐ便利なアプリです。“自然に学ぶ”を目標に実践するためには、みんチャレのホームページで、カテゴリー別に掲載されているリストからグループを見つけて参加します。ほぼ毎日、メンバーの頑張りが見え、励まし合うことで効果が上がります。（二次元コードからホームページへ）

いろいろな方法を試して、初夏のすがすがしい季節を「自然を学ぶきっかけ」にしてみませんか。

表紙のつぶやき

自然を学ぶということで、野川公園の中にある「自然観察園」に初めて行ってみた。想像以上の自然が残されていて、当日の天気が良かった事も合わせ園内を満喫した。木道も整備され、都内にある目黒自然教育園に比較してもリピート率が高いのではないでしょうか。（渡邉繁雄）

〔特別企画〕生涯学習センター　新館長はこんな人

この４月から生涯学習センターの館長に就任された横山幸司さん（写真右）。
大阪・河内生まれで幼い頃ガキ大将だった横山さんが、小学校で勉強にも運動にも積極的に取り組む“優等生”に大変身！ その後の経験が今も大きく役立っているという。そんな横山さんにインタビューしてみた。

― どのような少年時代でしたか？

生まれは大阪の柏原市（河内（かわち）音頭の河内）。幼稚園時代はガキ大将だったのですが、小学1年生の時にある先生と出会い、学級委員にしてもらったことがきっかけで、みんなの面倒を見ることが好きになりました。それで、勉強もスポーツも積極的に行う、いわゆる“優等生”に変貌し、その後は、生徒会長をやるまでになりました。

少年の頃はそろばんや習字を習っていて、算数と国語は好きでしたが、美術や音楽は苦手でした。大きくなってからはスポーツにも関心が向いて、休日には町内のソフトボールチームで練習や試合に明け暮れていました。近所の路地で友達やおやじとよくキャッチボールなどやっていましたね。

― その後、夢中になったことは？

中学・高校のクラブ活動は、バスケットボールをやっていました。また、一時期、読書好きな仲間が出来て、興味の湧いたものをかなりの量読み、それらは大学時代にも活きました。

＜写真はファミリー参加のソフトバレーボールで名古屋市代表として優勝した時のもの（愛知県大会でも優勝）＞

趣味としては、過去には実業団でのバスケットボールや琵琶湖でのヨット（レースにも参加しました）、家族でほぼ毎週行っていた山登り、友達家族とシーズンになると楽しんだキャンプ、会社・大学仲間などとのゴルフなどがあります。

― 生涯学習センターの館長に就任された感想は？

私の座右の銘は「住めば都」です。結婚してから今まで大阪市・福岡市・練馬区・名古屋市・江東区・西東京市と住んできました。最初は抵抗感が強かったりもしましたが、住んでみればそれぞれに良さ、魅力があり、快適に過ごせて家族もその土地が大好きになりました。

今回の異動も、‘スポーツ’のミズノに長年勤めてきましたので、‘学習’センター勤務ということにとまどいはありましたが、ミズノ時代に健康・高齢者に関するマーケティング部門にも所属していたので、その時代の知識やメンバーが活かせるのではないかと思っています。住めば都の精神で頑張ろうと思います。

― 今後の目標は？

館長としては、府中市の生涯学習及びスポーツの推進を図るための拠点として、これまでの成果を大切にしつつ、新たな取組みに挑戦し、市民の皆様に親しまれるよう、より良い運営を目指してまいります。

個人的に今後やりたいことは、子供の手がもう少しで離れるので、妻と二人でやれるもの（キャンプや山登りなど）をやってみたいですね。また、何か楽器ができればいいな！とも思っています。これから、芸術・文化に触れる機会が増えてくるかと思いますので、興味の湧いた事柄には、積極的に関わっていければと思います。

（取材・記／中濱敬文）

悠学短信

「みんチャレ」体験記～花好きが集まって楽しんでます！

みんチャレは、スマホを使っている５人でチームをつくり（私の場合：チームあじさい）、共通の目標を決め、お互いに励まし合い助け合って、目的の実現を図るもの。（本紙１面参照）

チームあじさいでは、毎日のウォーキング歩数を全員合計で 5000 歩に定め、歩いて見聞きした自然の変化を写真で報告し合う。参加者は 80 代が２名、あとは年齢不明だが全員 70 代、私以外は女性で、みなさん花に興味あり。もともと南町の地域包括支援センターで講習会があり、私以外の方が参加して結成。私は後からおもしろそうだと参加した。仮名 OK ということで、私はウコン。これは最初の投稿を農園で栽培のウコンの花にしたから。みなさん、見たことも聞いたこともなかったそう。府中でもウコンの花が見られるのは新しい発見で、興味を持ってもらえた。

最近の投稿は、生涯学習センター隣の米軍基地跡地の藤の花。放置された跡地に自生する藤の大木が見事な花を咲かせているのが、小金井街道から目に入る。今、公園ではきれいに藤棚がつくられ、栽培の藤の花が見事に垂れ下がっているのが見られるが、野生の藤はめったにお目にかかれない。藤といえば平安時代に栄華を誇った藤原氏を思い出す。なぜ藤原氏のシンボルツリーが藤で、古来日本人はこの花を愛でてきたのだろうか。不思議に思っていたが、藤はつる性の植物で、大木に巻き付いて成長し大きな花をひらく。これは、藤原氏が天皇家という大木に巻き付いて権勢を誇った姿を象徴しているらしい。

本当かな？ これで藤の花を愛でる気持ちに水がさされるかな？ 今は道端の外来植物の花に関心がいっている。西洋タンポポ、ハルジオン、ナガミヒナゲシ、ブタナなどが花盛り。（奥野英城）

学びを楽しむ　学びを支える　その【14】

“４代目”のホタルの飼育に取り組む 牛尾享子さん（押立町在住）

現在、南白糸台小学校の校務改善支援員として勤務している牛尾さん。学校と地域を結ぶ地域コーディネーターも兼ねています。そんな中、小学校のホタル飼育活動やこども食堂にも携わることになりました。４年前学校事務補助としてパート勤務を始めてから、現在の活動にシフトしていった経緯を伺いました。

ホタル飼育はどの様なきっかけから始まったのですか

南白糸台小学校で事務補助の仕事をしていた2019年の９月ごろ、スクールコミュニティと地域の興味のある方々を中心にホタルを育てることになり、私も校長先生に促されて参加しました。学校の敷地内には、昔のワサビ田、水路、湧水のあった「せせらぎ広場」があることから、何とかいけると思われていました。

ホタルの幼虫

幼虫を育てるバケツ

カワニナの水槽

ホタルケージ

「上陸装置」

作業中の「ホタル委員会」メンバー

それで11月に横浜の学校から校長先生がホタルの幼虫を譲り受けてきたのが始まりです。

その後、校長先生、副校長先生を中心として育てた幼虫が、翌年の６月に成虫になって、水のない水槽のなかで光を放ったのです。2020年、それが初代のホタルです。

餌になるカワニナの居場所をあちこちに聞いたり、探しに行ったり、川の中にも入りました。

当初の思惑のせせらぎ広場を利用して戸外で飼うというのはやはり難しく、特設のホタル部屋を作りそこで育てることになりました。

幼虫の餌のカワニナをペンチでつぶして身を取り出し餌とします。餌をやりすぎて大きくなり過ぎないように加減をすることが大変です。幼虫からサナギにするのも同様で、こども達による「ホタル委員会」が上陸装置を作ります。赤玉土と苔を幾重にも重ねた物です。（写真左）この中で幼虫がサナギになります。殆どホタルのことを知らないこども達が一生懸命世話してくれます。

こども達の「ホタル委員会」とは？

５年生10名、６年生12名合計22名が参加して授業の合間で世話をしています。上陸装置の中で幼虫からサナギになるところは見えませんが、何とか育ってくれと祈る思いです。やがて這い出てきた成虫をすぐに取り出し手作りのケージの中に入れます。

６月の25℃位の気温になると、光を放ちながら飛び交います。はじめは何も知らなかったこども達も、ハイタッチして互いに喜びを分かち合う姿はホタルと一緒に逞しく育ったとの思いです。

昨年 2022 年６月に一般公開した鑑賞会では、30～40匹位の平家ボタルが鑑賞できました。当初から数え３代目のホタルです。今年の３月卒業した６年生には、ホタルの命をつないでくれた事への感謝状を差し上げました。本当に有難く思います。

大変な時期もあったようですが

最初から中心的に関わっていた副校長先生が転勤し、その１年後には校長先生も転勤してしまい、飼育するのは大変になり、見よう見まねで覚えたことを思い出しながらの試行錯誤の毎日でした。

特に幼虫からサナギになるところは一番難しい時で、夜も心配でした。こども達や地域の方々のおかげで今年は４代目が成長しています。また鑑賞会ができるといいですね。（今年も実施できました／編集部）

今年から子ども食堂も世話することになったとか

地域コーディネーターをしている中で、地元の「押立・車返ささえあい協議会」に参加していた折に、押立にこども食堂をつくりたいとの話が出ました。私は常々、高齢者の孤食が増加していることに心を痛めていましたので、月に一度くらいは、子ども達と高齢者が一緒に楽しく食事ができないものかと思っていたんです。誰もが将来の事を考えるとうなずけるのではないでしょうか。

その様なところに、先ずはこども食堂の設立ということになり、代表になってくれと打診され引き受けた次第です。

４月30日に第１回こども食堂を押立文化センターで開催しました。30食のカレーが好評のうちに終了し、当日のアンケートにはお礼と感謝の言葉をいただき、大変感激しました。やって良かったとしみじみと思いました。協力してくれる仲間とみんながほっと出来る居場所を提供したいという思いから「押立ホッとすぺーす」と命名しました。今後は月に一度のペースで開催します。

子ども食堂の案内

いろいろと困難な問題に直面することはありますが、地域の方々の協力を得て乗り越えていきます。皆さんには本当に感謝です。

（取材：奥野 柴田 竹村 山田 丸山／ 記：渡邉繁雄）

ふちゅう東西南北 「自然からの学び」を求めて 武蔵野公園へ

「緑の街・府中」は市の中心部にある大國魂神社参道の欅並木や東西 1.1 ㎞にわたる約 300 本の桜並木がきれいだ。またハナミズキとツツジが咲く緑の通りも数多くある。

さらに緑の公園もあちらこちらにある。その中でも市の北東の端にあるのが都立の武蔵野公園と野川公園（三鷹市）、少し遠いけれど行ってみた。広々とした素敵な公園だ。夏には木陰が気持ちよさそう。みなさんも出掛けられてはいかがでしょう。（鈴木禎治）

植物の生き方に感心

5 月、前日から続く 30 度越えの記録的猛暑の中、武蔵野公園を訪れた。ユリノキは大空に向かってチューリップのような花を咲かせていた。風に乗って飛びやすいように高所に咲くという。上を向いて歩かないと見落としそうだ。緑の風を受けながら公園の中から野川沿いの道に出ると、道を遮るようにイロハモミジが枝の先に小さな赤い実をつけていた。枝越しに見える青空は、まさに芸術的な美しさだった。虫を使い、鳥を使い、風を使い、自然の中で上手に命をつないでいく植物の生き方に感心することしきり。

野川公園の自然観察園にも行った。名も知らぬ草花がのびのびと生い茂っていた。その中に見られる控えめな小さな花たちは、あえて主張することはないけれど、それなりにしっかりと生きている。もうすぐ多くの蛍が飛び交うそうだ。

便利さを求めての暮らしが日常になっている私たちに、情緒のかけた乾いた暮らしになっていないか、大切なものは何なのかとの警鐘を与えているような気がした。（中井博子）

生き物たちの場所 武蔵野公園

好天の中、武蔵野公園を訪れた。園内に入ると多くの種類の木々があった。ここには公園や街路に提供することを目的とした苗圃があるとのこと。まだ若木の木々たちが整然と並んでいた。ここからどこに行くのだろう。

案内マップを片手に見上げながらの公園散歩は今までに経験したことがなかったので、こんな楽しみ方は新しい発見だった。ユリノキに花が咲いていると聞き、頭上の木を見上げると、小さくてチューリップのような花弁を見つけることができた。大木に似合わず見上げなかったら見落としてしまうほど小さくてかわいらしい。

少し行くと苔の生えた木の幹には、虫たちが並んで動き回っている。よく見るとクワガタのような角のようなものがあるけれど… 鳥のさえずりもしきりに聞こえる。「発見歩き」の公園だった。（辻麻美）

≪編集後記≫「公園を歩く時は、ずっと上の方を見たり足元を見たり、いつもと違う目線を意識してくださいね」と武蔵野公園のパークコーディネーターの方。確かにいろんな「へ～」を発見することができ、楽しい取材になった。本号掲載の「学びのきっかけを見つけること」も一緒で“視点を変える”のは大切ですね。（西谷信昭）

自然観察 ～ 私の場合

公園の入り口の桜の木は弱っているらしく、樹幹液なるものが刺さっていた。これは人間でいえば点滴みたいなものだ。見ているうちに何やら 親近感が湧いてきた。眺めていると 「どうやって効いていくのだろう？」と疑問に思い、その場ですぐに調べた。

液は、浸透圧・蒸散・根圧によって全身に巡ると。超簡単に言うとストローみたいに 水分・養分を吸ってバケツリレーのように、１つ１つの細胞に満たしていくらしい。人間と違い 脳も心臓もない。シンプルだがすごいと考えながら何回か上や下を見ながら廻ってしまった。

私にとって観察とは 疑問と妄想と自分の内面を知る機会であった。「さてあなたは？」（山田詩子）

初夏の武蔵野公園に行ってきた

都立武蔵野公園には、市の北東の境界を流れる野川に沿って、草原や雑木林があり、武蔵野の野趣を存分に感じさせてくれる。

ちゅうバス多磨町ルートの終点で降り、東八道路を越えると、ケヤキやヤマザクラ、ヒノキ、エノキなどの大きな樹々が迎えてくれる。春はサクラやハナミズキ、秋は紅葉の名所として有名だが、初夏の時期は、樹々が青々と多種多様の葉っぱを繁らせ、緑風の心地よい散歩道を作っている。視線をあげてよく観察すると、サクラの葉陰には沢山の赤く色づき始めたサクランボがついている。雑木林の中は、小鳥のさえずりがかしましい。

雑木林を北に進むと野川に出る。国分寺崖線の湧水を集めて流れる野川は、多摩川支流の一級河川。かつては武蔵野台地の大量の湧水で滔々と流れる大河であったが、今はひっそりと閑静な住宅街を細々と流れている。武蔵野公園の流域には、左岸に草原や湿地が拡がり野の風景、右岸には武蔵野の樹林やくじら山と呼ばれる小高い丘があり里山の景観、流れには葦原があったりと、のどかな日本の農村の原風景を思い出させてくれる、大人のノスタルジックな散歩道。休日は子供たちの自然の遊び場。ボール遊びで走り回れる広場があり、川遊び、昆虫採り、野鳥の観察など何でもできる自然が残っている。くじら山から眺める国分寺崖線の森、その向こうの高層ビルの景観は、四季折々に、武蔵野に住んでいることを実感させてくれる至福の公園。（奥野英城）